

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク。



赤い羽根共同募金

2016

2

FEBRUARY



福祉ちば

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.169

特集

震災5年特集Ⅰ・Ⅱ

震災5年特集Ⅰ

宮城県石巻市社協の震災前・後の取り組み

震災5年特集Ⅱ

八街市社協、八街中学校の被災地支援活動

エールちば

アメリカンフットボールチーム「オービックスーガールズ」の地域貢献活動

いきいきかがやく 神田外語大学 CUP

福祉の資格とわたしの仕事 理学療法士

理学療法士

太田 直樹さん





日和山から太平洋を望む（現在）

「今、石巻から学ぶこと」

～石巻市社会福祉協議会における震災前、そして震災後の取り組み～

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市。死者・行方不明者は約4,000人にのぼります。その一方で、石巻専修大学を拠点に災害ボランティアセンター（以下、災害VC）を開設し、多くのNPOと連携・協働してボランティア活動を展開したのが石巻市社会福祉協議会（以下、石巻市社協）です。今回は、当時の災害VCで中心的な役割を果たした阿部由紀さん、そして佐倉市社協前事務局長で、現在石巻市社協において地域福祉アドバイザーとして活動している瀧崎博さんへのインタビューを通じて、今後の防災や地域づくりについて考えたいと思います。

●震災から5年を迎えて

震災から5年を迎え、今の率直な思いをお聞かせください。

阿部：震災を経験して思うことは、平時の関係が非常時には問われるということです。今、生活支援に取り組んでみて、平時にどれだけ地域の中で支え合いの活動をしてきたのか、どれだけ人脈を作っていたのかが問われたと感じています。

本当にオーソドックスなことなんですけど、例えば「あいさつができるまちづくり」をスローガンとした、一見地味に見えるかもしれない取り組みが非常時にはすごく役に立つのだと思います。

この5年間、特に力を入れてきたのはどういったことですか。

阿部：とにかく「人対人」に対する支援の在り方ですね。一人でできないことは、地域の中で、みんなで守っていきましょうという雰囲気を作るようにスタッフ全員が意識したことです。われわれ専門職が、地域で活動する方の手助けができれば、そ

の方はずっと安心して継続して活動してくれる。そういった関係をわれわれから作っていく必要があると思いました。その考えは現在進められている「地域包括ケアシステム」にも通じると思います。

●震災前と変わった点

復興が進む中、震災前と変わったのはどのような点ですか。

阿部：例えば沿岸地域でやっていた八百屋さんとか、魚屋さんとか、個人経営をされていた方というのは、津波で全部流され、今後そこに住めるかどうかかわからない。チェーン店などはすごいスピードで復旧し、灯りがとまり、買い物ができるようになったので復旧したようにも思われがちですが、いざ「生活の復興」となった時、個人経営だった方は、住む場所から働く場所までよそに求めなければいけません。

生活支援をしていると就労の問題に必ず直面します。就職するきっかけをつかめないまま、最後には生活保護となってしまうことがあります。就業支援は大きなポイントになっていたと思います。

人と人との関係で変わったと感じている点がありますか。

阿部：震災前は高齢の親と子の2世代、あるいは孫との3世代が一軒家で同居していたのに、一旦仮設住宅へ入居した場合、手狭なため、隣り合わせで2部屋借りたりします。でも、そういった家族が仮設住宅を出る時には、高齢の親と、子



石巻市社会福祉協議会復興支援課 課長補佐 阿部 由紀さん



震災直後の日和山からの光景

ってもらえるようになりました。結果、私たちの取り組みに協力してくれる人が増えたと分析しています。これはこの震災によって、石巻という町がその点では大きく変わっている点だと思います。ある意味、良い方向としてそういうことがあります。だったら、今、まさにやるべきじゃないのか、と思います。

●災害VCの立ち上げ

震災直後、石巻専修大学内に災害ボランティアセンターを立ち上げられました。

阿部：平成19年度、宮城県沖地震が10年以内に90%程度の確率で発生する可能性があると言われていた当時、市社協から石巻市役所（福祉事務所）に相談を持ちかけました。いざ、災害が発生した場合、ボランティアが安心して活動できる、かつ効果的・効率的に運営できる場所としてどこがいいだろうかと考えた時、私は、それは石巻専修大学だと思っていました。市の防災対策課では、その時まさに、そういったボランティアの活動拠点の必要等も踏まえた計画を立てようとしていたところで、市の企画部長にも説明したところ、総合計画の中に石巻専修大学を拠点とすることを盛り込もうと言って後押ししてくれました。

大学側もずっと前向きに検討してください、震災の3年ほど前から大学側と打ち合わせを重ねることになって、どういったベースが必要で、例えば倉庫、ボランティアの待機スペースとか、受付やマッチングをする部分をどんな風に作り込んでいかなど、具体的な話になっていきました。

相当前から準備していたことになりますか。

阿部：宮城県では県知事、市町村長、そして各市町村社協の会長がそれぞれ三者協定というのをやっていて、覚書を取り交わしています。簡単に説明すると、大規模災害時に、県は当該市町村に人を出します、市は場所や資材を提供

してバックアップします、社協はボランティアセンターを運営します、というような協定です。

そういった協定があって、石巻市としても大規模災害時に石巻専修大学を借用してもらいたいということになり、震災の年の3月30日に市と大学との間で協定を締結する予定になっていました。3月11日に大震災が発生しましたが、大学側の協力により3月15日には大学内に災害ボランティアセンターを設置することができました。

●職員の災害マニュアルについて

社協職員には災害時の対応マニュアルなどはあったのですか。

阿部：マニュアルはなかったですね。検討したことがありましたが、その中で「こういう災害だからこうしましょう」ということは難しいんじゃないかという議論があったんです。災害はいつ起きるか分からないし、時間帯もわからない、夜中だったり早朝だったり、休日だったり。平日だったら万全を期せるが、職員だって散らばっているから意外と難しいだろう。だったらマニュアルは難しいからと、簡単な行動指針を作りました。

行動指針では、休日の場合、職員はいつ起きても最寄りの支所、もしくは施設に行けと決めてあります。平日であれば所属部署に戻る。ただし、本人の安全が確保できなければその限りではないと書いてあるんですよ。安全じゃないと判断した場合ははっきり逃げなさいと書いてある。あれ以上はないんじゃないかなと。マニュアルの〇〇ページをご覧ください、という話ではないんだろうと思います。

●住民に対する啓発

住民に対する啓発はどのように行っていたのですか。

阿部：災害時におけるボランティアから



2011年11月にオープンした仮設商店街おがっ店こ屋街（雄勝）



石巻市社協 阿部由紀さん、瀧崎博さん

の「受援力」をテーマに震災前から6年間くらい、1,000人規模のフォーラムをずっとやっていた。6年も続けて同じテーマにしたのは、地域の役員さんが1年なり2年でどうしても替わってしまうからです。民生委員さんも任期が3年です。必要なことはやり続けることが大事なのです。

実際、震災後に町内会の方にお話を伺ったら「お前のところでやってた意味がよくわかった、受援力ってこれか」と言われ、やってきてよかったと思いました。

宮城県沖地震が来るというのは住民にもイメージとしてあったのですか？

阿部：ありました。ただ、昭和35年のチリ地震津波のイメージが皆さん残っていて、津波はまず水が1回引いてからその後ワサワサと来るものだと思っていました。しかし今回は違いました。水が引かずに一気にドーンと来て、ギューンと一気に引くのです。今回は近海で起きた津波だったので、一度に全部押し寄せてくるところがチリ地震津波とは違ったところでした。

今回の津波は時速40キロぐらいで、これは陸上の100メートル選手よりもはや早いぐらいです。しかも水だけでなく、例えば船なんかの時速40キロでぶつかってくるのです。津波は水の力だけではなく、そういうこともあるので危険なんです。

ずっと、そういうことを地域で話してきました。ただ、全部には伝えきれません。だから講演などに来てくれた人は帰ったら周りの人にそういう話を伝えてほしいんです。



雄勝湾（雄勝）



北上川堤防のかさ上げ工事

ども・孫とが別々に住み始めてしまうケースが多々見受けられます。だから、人口は減っているにもかかわらず、反対に世帯数がどんどん増えている状況になっています。それまで地域での生活を支えてきた昔ながらの田舎の風情のようなものが、どんどん分解していつかなくなる感じがします。

一方で、新たな関係づくりも進んでいますか。

阿部：震災以降、その人の心を支えよう、近隣住民の支えが大事だと考え、そういった事業をやり続けてきました。その結果、これまであまり社協や福祉などと接点のなかった元気な方々で、地域のキーマンになっている方たちにも、私たちの活動を知



仮設住宅（東北最大の開成団地）



大川小学校旧校舎の裏山



大川小学校旧校舎

大川小学校では多くの児童・先生が亡くなりました。

阿部：大川小学校旧校舎があった地域はもともと津波など来たことのないところなんです。チリ地震津波の時にも津波は来なかった、という経験が地域にはあったんです。

だから、前歴以上のものは「ない」んじゃないかと、それ以上のものも「ある」んだと考えて、「逃げる」ということを今後どういうふうに想定するかということなんだと思います。

地域の方がもっと上にあがれ、もっと上にあがれと言って、児童全員が助かった地域もあります。だからこそ、私たちは命を守るためにも地域の経験値と住民の地域力を上げていくしかないんです。

●災害時における社協の役割

社協が災害支援を行っていく意味をどのようにお考えですか。

阿部：社協というのは、災害VCを運営する、ボランティアコーディネート業務が上手にできる団体かといえば、必ずしもそうでもないと思っています。豪雨災害などの現場も見てきましたが、泥ばかり見て、人を十分に見ていないんです。

本来やらなくちゃいけないのは人への支援であって、泥の片付け支援ではないわけです。片付けることが人への支援につながるとは思いますが、一方で、片付けた後や、片付ける際にその人のことをきちんと支援しているかという視点が社協にないと、ただの「泥かきセンター」になってしまう、社協がやっている意味はないと思います。

災害VCの運営面でいえばNPOの方が上手だと思います。NPOは自分たちもボランティアをやるから立場をよく知っているんです。だからNPOに必要なところはお任せし、社協は要援護者支援だったり、地域で支え合っていくときの地域の中の支援者側にも立って支援していくという視点をもっていないとだめだと思っています。

今回、石巻市社協としてできたこと、できなかったこと、これは両方あるんです。

できなかった部分はどのようなことですか。

阿部：われわれも最初は「泥かきセンタ

ー」を目指しました。でも、それを進める中で、災害時に要援護者はどのように過ごしていたのか、障がい者の方々はどのように暮らしていたのか、妊婦さんはどうしていたのか、耳が聞こえなかった人はどのようにその災害を知ったのか、そういったことを、われわれは何も知らなかったのではないかと、段々気づいてきました。

それからは、NPOの皆さんには、専門的な支援が必要そうな人や、高齢者や障がい者の方に会った時には、是非自分たちに紹介してほしいと伝えました、社協が行くと。気難しい方とか、なかなか融通がきかないとか、何かあったら社協が受けて。だから、現場にはしょっちゅう行っていました。そういったことがやれるようになったのはたぶん連休明けからだだったと思います。

我に返った時、あっ失敗したなと思いましたよ。でも、取り返すのはいつでもできるとして、これから取り返していこうと思って、そういうことをやってきました。

●職員同士の支え、社協同士の協力

立ち止まって考えるような時間はなかったのでしょうか。

阿部：当時、まさに提案地獄でした。「社協さんはこうすべきだ」と、NPOをはじめ、たくさんの方から様々な提案をいただいていた。やっとなりで冷静に考えられるようになった時、NPOの役割は

こうなんだろうな、じゃあ社協の役割ってなんだろうと。社協の仲間にも聞いてみて「そうか、やっぱり」「じゃあ、これやんなきゃいけないよな」とか。そして自分たちで始めよう、となったのです。社協には仲間がいるわけですよ。一緒に訓練をやり、住民の前で寸劇してきた仲間が。同じベクトルを持っている仲間がいて、「やっぱり、そうだよな」って話をしながら地域を歩くことをしました。

同じ意識をもつ職員がいたというのは大きいですね。

阿部：非常に大きいです。大きい災害になればなるほど、担当者は孤立してしまいがちです。でも、自分には共有できる仲間がいました。それは、事前に行ってきた研修や、訓練が活きているのだと思います。あと、上司が理解してくれていたというのも非常に大きいと思います。

県内の市町村社協からの支援はどういった形で行われましたか。

阿部：近隣の大崎市社協が8月末まで延べ500人を超える職員を派遣してくれました。そのほかにも多くの社協が支援してくれました。これがかたにか大きかった。訛っている人がいいんですよ。地元の高齢者の言葉（方言）がわからないと、電話を代わらないといけないこともある。それが大崎市社協のように近隣の社協が来てくれると、はいはい、どうもみたいな感じでやってくれるんです。だから二一ズ班に入ってもらったり、現地の調査班に行ってもらったりするのは近隣の社協さんをお願いしました。



地域福祉コーディネーターのみなさん

●力になったこと・役に立ったこと

現場で力になったのはどんなことですか。

阿部：やはりNPOですね。NPOは決断が早いし、様々な得意ジャンルがあり、それぞれ強みを持っている。すごく力になると思います。新しいことを企画することもできるし、すぐ実行できる団体なので、そういう意味でも勉強になりました。

もちろん行政にも感謝しています。石巻専修大学の使用や財政的な支援も含めて、行政の理解があったからこそだと思っています。

役に立つツールの1つとしては無線機が挙げられます。携帯電話が使えない状況でも無線機なら相当な距離まで一斉に連絡を取ることができます。石巻市社協では震災前の平成22年12月の時点で本所と6支所に情報収集用の無線機を設置していました。現在は公用車へ無線機の配備を進めています。

●NPO団体との関係

NPOとはどのように協働したのですか。

阿部：社協は白旗、降参という状態でしたから、NPOが来てもらって助かりましたし、全部受け入れました。まず私たちが間に入って、地域と一緒に回って地元の人たちとNPOの人たちを引き合わせたんです。私たちは会費や共同募金などで自治会回りをしているので、会長さん

たちをよく知っていました。なにかあったら言ってくださいねと地元の人には伝える。受け入れる方は安心して「わかったわかった」と受け皿になってくれる。もしダメだったら出てもらう、それだけの話です。でも、NPOは本当に力になりました。あんなに素晴らしいとは思わなかったです。

NPOへのイメージが変わったんですね。

阿部：付き合ってみてわかったのは、NPOの人が口にする疑問は、誰しもが思う、社協に対する疑問なんです。判断が遅かったり、「社協さん、それやらないんですか？」みたいな話もある。「あー、今のは当然疑問に思うよね」とこちらも思う。NPOが失敗したことを私たちが補完することもたくさんありました。だから、NPOには安心感を持って活動してもらえたかなと思っています。

●これからに向けて

今後に向けた思いをお聞かせください。

阿部：復興という使命を持っていることを常に認識しながら、地域福祉に関してもっと真摯に向き合って福祉で地域づくりをしていくとか、地域コミュニティとはなにかとか、そういうところを実践していくことが、難しさはありますけど、これらに向けた思いです。



海岸近くに掲げられたメッセージボード

■千葉県へのメッセージを。

阿部：千葉県の方々には本当に、震災以降、個人的にも、石巻市民としても本当に感謝しかありません。物心両面で支えて頂いたと感謝しています。

千葉県をはじめ、南海トラフ地震で被害が想定される地域では、それを題材にして地域づくりができると思います。東日本震災の時はこうだったから、私たちの地域で予想される災害に対して、こういうことを平時に活動していくことが大事なんだ、と結びつけることができるのであれば、今やっておかないといけないと思います。明日起きるかもしれない災害への準備というのは、むしろ日常、平時を見直すんだということでもありますから。

震災を経て千葉県の皆さんとつながることができました。今後、お役に立てることがあればぜひ協力させていただきたいと思っています。

基本データ（いずれも平成28年1月末日現在）

- 人口：148,665人（震災前162,822人）
- 世帯数：60,553世帯（震災前58,142世帯）
- 高齢化率：30.1%
- 人的被害：死者3,547人・行方不明者428人

石巻市災害VC実績（平成25年3月末現在）

- (1) 受入総数 116,567名
- (2) 活動実数 122,625名
- (3) 活動件数 10,530件
- (4) 支援状況：47都道府県、海外約20か国からボランティアの支援を受ける。

インタビュー



石巻市社会福祉協議会 復興支援課 地域福祉アドバイザー 瀧崎博さん (前佐倉市社会福祉協議会事務局長)

被災地とご縁は震災後にたまたま観たニュースが発端でした。ニュースは岩手県の陸前高田市社協が壊滅してしまった、陸前高田をどうか助けてくださいと、当時の社協臨時職員が訴えている内容でした。それを観て同業者として放っておけないと現地に入り、退職を機に岩手県に移り住み、陸前高田の災害VCに通ってお手伝いをしていました。

陸前高田の災害VCが閉鎖された後、石巻市社協から声をかけてもらい、佐倉市社協で30数年お世話になったことへの恩返しという思いで地域福祉アドバイザーの任を引き受けました。

石巻市社協に配置されている「地域福祉コーディネーター（CSC）」は、いわゆるコミュニティソーシャルワーカーです。CSCは震災をきっかけに配置されたものですが、経歴はさまざま、社協経験者はほとんどいません。いきなりコーディネーターで、いきなり地域に出る、という感じでしたので、私の経験をなんとか伝えたいという思いでやっています。

石巻では仮設住宅から復興公営住宅に移行する時期を迎えており、被災者支援だけでなく、地域全体のコミュニティづくりというものを考えていく必要があ



完成した復興公営住宅

ります。まだ点の活動が多く、これを線へ、面へとCSCがつないでいけるよう、人材養成に努めたいと思います。

石巻市と千葉県は距離にして400キロくらい離れています。震災当初は千葉県でも社協をはじめ、様々なボランティアグループが復興支援活動をしていました。ただ、時間が経つにつれて、少しずつ忘れられていくのかなという思いがあります。ですから、距離が離れていても、いまだに被災した地域があること、あるいは被災した人たちのことを忘れずにいてもらいたいと思います。

「被災者の役に立ちたい」 その思いを胸に、中学校や地域とともに被災地への支援を続ける

～八街市社会福祉協議会の取り組み～



八街北小学校の防災訓練における心肺蘇生の様子

東日本大震災から5年。八街市社会福祉協議会は、震災直後から宮城県塩竈市のボランティア団体と協力関係を築き、今もなお被災地への支援活動を継続しています。また、市内の中学生が宮城県の被災地を訪れ、ボランティア活動を行う取り組みの橋渡しをはじめ、防災活動をきっかけとした地域福祉活動を展開しています。

被災地の団体と協力関係を築く

八街市は海や大きな川もなく、地盤も比較的安定していることもあり、東日本大震災では震度5の揺れに見舞われましたが、大きな被害はありませんでした。

震災後まもなく、八街市社会福祉協議会(以下、市社協)には「被災地に支援物資を届けたい」という市民団体や住民から次々に相談が寄せられました。八街市社協の綿貫敏宏事務局長は「住民の思いをなんとか被災地に届けたい、被災者の役に立ちたい」と考え、とにかく市社協が窓口となって野菜や日用品を現地に搬送する支援をスタートさせました。

八街市サッカー協会四種委員会が支援物資を届けたのが縁でその受け入れを担ってくれたのが、宮城県塩竈市を拠点

とする會澤純一郎氏が代表を務めるボランティア団体「希望」でした。「希望」は岩手県から宮城県、そして福島県まで、広範囲にわたって支援活動を展開しており、地域ごとの詳細な情報を把握していました。

「市社協としては現地で活動していた『希望』とつながったことが非常に大きかったと思います。會澤代表にキーマンになっていただいたことで、各地のニーズに合った支援物資を、的確に、公平に、しかも広い範囲に送り届けることができました」と、綿貫事務局長は振り返ります。

震災の翌年、やちまた市民ボランティア「おもいやり」が結成され、現在もこの団体が中心となって仮設住宅に入居されている方などへ支援物資を送っています。

ポロシャツを買って被災地支援

現地へ支援物資を届けるためには輸送などに経費がかかります。市社協では平成26年に「買って支援! 着てPR!」をテーマにオリジナルのポロシャツを製作・販売する活動を始めました。八街市の特産品、落花生のイメージキャラクター「ピーちゃん・ナッツちゃん」を胸に刺



繍したポロシャツを1枚2,000円で販売し、そのうちの300円がやちまた市民ボランティア「おもいやり」への支援金となります。カラーが10色と豊富なポロシャツは市民の人気を呼び、26年度は2,727枚を販売し、約82万円が支援金になりました。

また、市社協が入っている市総合保健福祉センター3階の売店において、「被災地を忘れない」をテーマとした「宮城県物産展」を常時開催しており、水産物の缶詰などを販売して「希望」への寄付に充てています。物産品は地域の方が参加する様々なイベント会場でも販売しています。「寄付活動を行うにあたって大切なことは、住民に支援の仕組みを周知するだけでなく、寄付金を被災地支援にどのように役立てたかきちんと報告し、透明



八街市社会福祉協議会事務局長
綿貫 敏宏さん



12時間の被災地体験が 子どもたちの心を育てる

～八街市立八街中学校の取り組み～

私たちの中学校では震災翌年からこれまで計5回、「被災地ボランティア活動」を実施してきました。

夜9時に貸切バスで学校を出発し、翌朝宮城県の被災地に到着。現地に12時間ほど滞在して様々な体験をし、その日の夜9時に戻ってくるという弾丸ツアーです。

たった12時間ではありますが、津波で犠牲になった小学生たちに思いをさせ、仮設住宅でお年寄りとふれあうといった体験を通して、子どもたちは大きく成長します。行きバスでは観光気分だった子どもたちが、帰りのバスでは「被災者のために自分たちに何ができるのかずっと考えている」と真剣な表情で、自分の言葉で語るようになるのです。そして、自分たちの住むこの八街という町を意識するのです。

活動から戻ってきてからは全校集会での活動報告のほか、市民や教育・福祉関係者に向けての報告会も行っています。当初は2、3年生も参加しましたが、平成25年からは1年生に限定し、毎年30名ほどが参加しています。1年生に限定するのは、被災地での体験をその後の中学校生活で活かしてもらいたいと考

八街市立八街中学校
廣瀬 正臣 校長



えたからです。

この活動にはPTA や市社協、地域の方も一緒に参加してくださっています。学校だけの取り組みにとどまらない、地域ぐるみの活動になっていることも特徴的だと思います。被災地ボランティア活動は学校の行事ではありますが、もうすでに地域における大事な伝統行事の1つになっているのだと思います。

また、私たちの学校では特別支援学級でも震災復興の取り組みを行っています。被災地から苗木を預かり、それを育て、再び被災地に運び、植樹して緑化に役立てていただくという活動です。

こうした取り組みは学校の力だけでできるものではありません。どれも地域のボランティアの方や市社協の支援のおかげであり、感謝しています。今後も被災地を忘れずに支援を続けていければと思っています。

私の 心に残った 体験

千坂 悠真さん
(八街中学校1年)



「行けば人生が変わるよ」。先輩から言われた言葉が忘れられず、活動に参加することを決めました。そして、実際に行ってみて、僕の心に一番残っていることは、仮設住宅のお年寄りと一緒に童謡「ふるさと」を歌ったことです。涙を流している人もいて、みんなとても喜んでくれました。南三陸町の防災対策庁舎の鉄骨が折れ曲がっている様子を見た時は津波のすごさを実感しました。思っていた以上に被害が大きくて、暮らしている人は大変だなと思いました。僕にできることって何だろうとたくさん考えるようになりました。また、被災地に行ってみたくと思っています。

性を高めることです」と綿貫事務局長は話します。

中学生による被災地での ボランティア活動

八街市における活動の中でも特に注目されるのは、中学生による継続した「被災地ボランティア活動」です。これは中学生が被災地を訪問し、仮設住宅にお住いの高齢者などと交流したり、多くの児童が犠牲になった宮城県石巻市立大川小学校で献花したりする取り組みで、震災の翌年から始まりました。

八街市教育委員会が千葉県から防災教育を中心とした実践的安全教育支援モデル事業を受託したことにより、市内の小中学校関係者が集まる会議の席上、「被災地と八街市に住む中学生を結び取り組みが何かできないだろうか」と、市社協から提案がありました。その提案に興味



八街市社会福祉協議会
会長
石毛 勝さん

を持った八街市立八街中学校とPTA、そして市社協が一体となって準備にとりかかり、會澤代表に現地でのコーディネートをお願いしたことで調整も進み、平成24年に第1回の活動を実施しました。この活動が大きな一歩となり、八街市内にある4つの中学校すべてが同様の活動を実施したのでした。

八街市社協の石毛勝会長はこの取り組みについて、「私も現地に1度同行しましたが、子どもたち一人ひとりの心に響く体験ができる活動です。防災意識も高まり、『自分たちの地域は自分たちが守る』と考えるきっかけにもなっていました。そうした体験は何物にも代え難い財産になるでしょう。市社協では資金面やコーディネートの部分で引き続きバックアップをしていきたいと考えています」と話してくれました。

地区社協も防災をテーマに活動中

八街市社協は、千葉県および千葉県社会福祉協議会が推進している「地域福祉フォーラム」では、9つある地区社会福祉協議会が積極的に「防災」をテーマに取り上げ、防災を通じた話し合いや地域づくりに取り組んでいます。

例えば、八街北地区社会福祉協議会では地区内にある八街市立八街北小学校と



自衛隊によるカレーの炊き出し

タイアップして、授業参観の日に避難訓練や引き渡し訓練を実施するなど工夫しています。また、自衛隊にも参加してもらい、実際の炊き出しの様子を見学するなど、昨年は約900名の参加がありました。

八街市は特に市外から転入してきた住民が多い地域で自治会への加入率が低い状態にあります。要援護者の把握が難しく、災害時に一人暮らしの高齢者や障がいのある方などを支援する仕組みをどのように作ったらいいのか、市社協では地区社協とともに模索しています。

震災から5年を迎える今もなお、被災地の方たちと手をつなぎ支援を続けている八街市社協。子どもたちや地域住民も巻き込んだ地域ぐるみの支援活動がこれからも長く続いていきます。

エールちば



スポーツやイベントを通じて地域との交流を アメリカンフットボールチーム 「オービックシーガールズ」の地域貢献活動

昭和58年に結成されたオービックシーガールズは、習志野市に本拠地を置く社会人のアメリカンフットボールのクラブチームで、過去7回も日本一に輝いている強豪です。優秀な戦績を挙げる一方で積極的に地域と交流しており、子どもたちとのスポーツを通じたふれあいや地域住民に向けた健康づくり教室の開催、地域のイベントへの協力といった活動に取り組んできました。これまでの活動内容や歩み、チームのみなさんの思いをレポートします。

学校訪問やイベントを行い 子どもたちとふれあう

オービックシーガールズ（以下、オービック）は習志野市のオービック習志野グラウンドを拠点に地域に根差した活動を展開しています。アメリカンフットボール（以下、アメフト）のチームとして長年培ってきた技術や体力づくりのノウハウを、地域に還元するというスタンスで進めてきました。

まず挙げられるのは、「きてきてアメフト先生」です。これは、オービックの選手やコーチが学校を訪問して体験授業を行うもので、フラッグフットボールというアメフトをもっと安全に、誰でも楽しめる形に変えたスポーツを教えています。

す。平成23年度からフラッグフットボールが小学校の新学習指導要領に取り上げられたことにより、先生方からの訪問依頼が増え、今では市内の小中学校を中心に年間約20校を訪れ、3,000名を超える小学生とふれあっています。

オービックでコーチを務め、「きてきてアメフト先生」の名物先生でもある渡辺雄一さんは、「フラッグフットボールは一人ひとりに役割があって、運動神経の良し悪しに関わらず全員で楽しめるスポーツなので、子どもたちからも先生方からも大変喜ばれています。何度も依頼してくれる学校も多いですよ」と話します。

オービックではさらに、オービック習志野グラウンドを会場として月1回、地域の子供たちと現役の選手と一緒に楽しめる「フラッグフットボールで遊ぶ日」を開催しています。訪問授業でフラッグフットボールに興味を持ってくれた子どもたちの体験の場を増やしたいという思いから始めたそうで、参加者は毎回20~40人と好評で、リピーターも多いそうです。

オービックでは平成12年頃からジュニアチームの育成にも取り組んでおり、



オービックの渡部滋之取締役(左)と渡辺雄一コーチ

現在は小学生チームに約80名、中学生チームに約20名、チアリーディングのチームに約30名が所属していますが、このようなイベントや体験授業でフラッグフットボールに興味を持った小学生から「ジュニアチームの練習を見学したい」という申し込みが増え、ジュニアチームの会員増につながっているそうです。

人材やノウハウを生かして 地域の盛り上げに貢献

オービックでは、地域住民の健康づくりのための講座もいくつか開催しています。チームのトレーナーが講師役となり、実際にチームで行われているトレーニング



グ方法を取り入れている「体幹トレーニング&ストレッチ講座」は、以前、公民館で単発のイベントとして実施したところ、主婦を中心とした受講者のみなさんから「継続してやってみたい」という声寄せられ、週1回、開催することになりました。その他、体作りを目的としたエクササイズであるピラティスの講座を開催したり、さらには子どもたちを対象に、運動能力を向上させるためのスポーツ教室「アスリート・ファクトリー」も隔週で開催し、チームのノウハウを活用した取り組みを進めています。

「地域の人にもっとオービックを知ってもらいたい」という思いから、市民祭りや、商店街のお祭りなどにも積極的に参加しています。オービックの渡部滋之取締役は、「どのような形で地域に出ることができるか市役所に相談したところ『祭りをチアリーダーのみなさんに盛り上げてほしい』という要望があったため、チアリーダー“SEA-Cheer”が参加してパフォーマンスを披露させていただきました。すると大変好評を得て『今年も来てください』と毎年のように声がかかるようになったんです」と笑顔を見せます。

今では年間20回ほどのお祭りに参加し、SEA-Cheerのパフォーマンスのみでなく、選手や選手OBによるアメフトのボールを使用した的当てゲームの出店などを行いお祭りを盛り上げています。

お祭り以外にも、講演会や習志野市社会福祉協議会の実施する街頭募金など、渡部さんを筆頭に様々なイベントに参加しており、合計すると年間40~50回は地域に出向いているそうです。

“自分たちのため”が “地域のため”につながる

このように精力的に地域貢献活動を行っているオービックですが、「地域のために何かをやっているという感覚は全くない」とお二人は口を揃えます。「もともとはアメフトの普及やチームのPRがしかなかったし、子どもたちと一緒にアメフトで遊びたかったから学校訪問などを始めたんです。すると、子どもたちの運動能力の低下が著しいことが分かり、まずは運動や体を動かすことの楽しさ、



気持ちよさを知ってほしくて活動を続けています」と渡辺さん。渡部さんも「やはりチームのPRが一番の目的でしたが、いざ活動してみると地域の方たちがとても喜んでくれるし、地域の方や子どもたちと交流が生まれて選手たちも嬉しい、楽しいんです。だから声を掛けてもらえれば、予定さえ合えばどこでも行きますし、逆に予定が合わなかった時は無理しないようにしています」と話します。

地元からの応援が チームを強くする

アメフトは試合会場に限られ、これまでは主に川崎市の球場で公式戦を開催していました。しかし、地域に根ざしたチームを目指しているオービックは地元開催に向けて動き出し、平成21年から24年までは千葉市のQVCマリフィールド（旧千葉マリスタジアム）で年1回ずつ公式戦を開催。25年からは念願だった習志野市の秋津サッカー場で年1回開催しています。「とにかく地元の方にアメフトの試合を見てもらいたかった。いざ地元で開催してみたら、フラッグフッ



オービックが実施する様々な地域貢献活動

トボールをやっている子どもたちや保護者のみなさん、ストレッチ講座の受講者のみなさん、地域のイベントでチームを知ってくれたみなさんなどが気軽に応援に来てくれ、日々のつながりを実感するとともに大変励みになりました。身近な方に身近なスポーツだと思ってもらうことで、アメフトの人氣もまだまだ広がると思います」と、渡部さんは地元開催に手ごたえを感じています。

オービックの地域貢献活動は地域の人たちにたくさんの楽しみを与える一方で、自分たちの強いチームづくりにもつながっています。



募金活動

積極的な ご協力に感謝しています!

オービックと習志野市社会福祉協議会（以下、習志野市社協）との連携のきっかけは、東日本大震災でした。「被災した方へのお手伝いを何かしたい。何か出来ることはありますか」と声をかけていただきました。余震もあり不安な日々の中、その声がとても心強かったのを覚えています。JR津田沼駅で「東日本大震災義援金」の街頭募金や、災害対応ボランティアセンターを通して、被災した方々のご自宅等の土砂の撤去作業など、力仕事を積極的に行っていました。

震災後は、毎年「歳末たすけあい募金」の街頭募金、平成27年度は新たに「赤い羽根共同募金」の街頭募金にもご協力いただきました。おかげさまでチームのサポーターの皆さまや地域の皆さまが募金に協力してくださいま

した。また、習志野市社協秋津支部子育てサロンの「お花見」や「焼き芋」での設営、お子さんやお母さんたちとの交流、香澄支部では「体幹トレーニング&ストレッチ講座」を開催していただき、小さな子どもからお年寄りまで皆オービックのファンとなっています。私どものサロン活動を通じて、地域の方がオービックや選手を知る機会にさせていただきたいと思えます。

地元の団体と連携することは、市社協の実施している地域福祉活動の大変大きな力になります。習志野市社協はこれからもオービックを応援していきますので、様々な形で連携をお願いします。



習志野市社会福祉協議会 主事 三橋 亜友美さん



オービックの試合風景

地域の人たちと作り上げる 恒例のチャリティ・フリーマーケット

URL <http://www2.kuis.ac.jp/makuchari/index.html> facebook <https://www.facebook.com/makuchari>



幕張にキャンパスを構える神田外語大学の学生団体「神田外語大学 CUP (Create Universal Peace)」は 2004 年に設立。春と秋の年2回、キャンパス内でチャリティ・フリーマーケットを開催し、その売り上げをアジアの国々への支援などに充てています。地域住民からの寄付品や地元企業からの協賛品を学生が販売し、地域ぐるみのチャリティの場を作り上げています。

3年生のとき、フード担当として「チャリティ屋台村」を運営管理。地域の方や教職員、学生などが協働してイベントを盛り上げました。

代表としてプレッシャーもありますが、それを上回る達成感があります。大切な仲間もたくさんできたし、気軽にできることで世界を変えるって、すごいと思いませんか？

3年のとき副代表を経験。ボランティア100名を束ねることは大変でしたが、やりがいを感じました。オークションの司会を務めたことも貴重な体験です。

栗原 涼矢さん
国際コミュニケーション学科
4年

小林 裕也さん
英米語学科 3年

峰澤 匡範さん
国際コミュニケーション学科
4年

副代表として準備段階では苦労もありましたが、当日、来場してくださった地域の方々が楽しんでいる姿を見ることができたことが何よりも嬉しかったです。

坂内 未央さん
国際コミュニケーション学科
3年

地域住民にまねろ大盛況のイベント



こんなに楽しいのに、人のためにもなるなんて！

神田外語大学CUPは「気軽に楽しくできる社会貢献システムを、幕張から日本に広めよう」というビジョンを掲げ、2005年から「幕張チャリティ・フリーマーケット」(以下幕チャリ)を年2回、主催しています。大規模に開催するのは春で、秋は学園祭の中でイベントとして実施しています。

昨年5月23・24日の2日間に渡ってキャンパスで開催された第11回目の幕チャリでは、約100名の学生ボランティアが販売などを担当しました。地域住民など約2,400名が来場するという盛況ぶりを見せ、売り上げと寄付金の合計は約132万円にのぼったということです。幕チャリは土日に開催するので、会場はたくさんの家族連れで賑わい、毎年100万円ほどの売り上げをコンスタントに記録しているそうです。

幕チャリサイコー！



問が功を奏し、継続して協賛品を提供してくれる企業も多いです。例えば千葉ロッテマリーンズは毎年、選手のサイン入りグッズを提供してくれて

地道な努力で地域の協力を得る

幕チャリの運営を担うコアメンバーは3年生が主力で10名程度の少数精鋭です。「友だちや思い出をたくさん作ることができるから」などの理由で1年生の時に販売等のボランティアに参加した学生が活動にやりがいを感じ、継続して関わり続けています。

メンバーはイベント開催への第一歩として、販売品集めから力を入れています。地域の方に対しては公民館や地区の掲示板などに寄付品受け付けの告知を行い、毎年3月頃、3か所の公民館で受け付けています。町内会長に直接周知の依頼も行い、回覧板に告知のチラシをはさんでいただいたり、様々な形の協力が得られています。

幕チャリはすっかり地域に根付いており、「一年間幕チャリのためにモノを集めてきたよ」と言ってくれる方も大勢いるそうです。そして、毎年1・2月になるとメンバーが手分けして地域の企業を訪問し、協賛品の提供やPRの支援をお願いしています。スーツに身を包み、昨年は40社ほど回りました。毎年の訪

おり、チャリティ・オークションに出品することで集客にも役立っているそうです。こうして集まった寄付品や協賛品は、なんとコンテナ2個分にもなるとのこと。

広がる活動の幅

毎年の売り上げのほとんどは非営利団体に寄付され、主としてカンボジアの農業支援や貧しい子どもたちの教育支援に活用されています。峰澤さんと栗原さんは、非営利団体のスタッフと共に実際にカンボジアを訪問・視察してきました。寄付金で購入した農業用の機械が実際に役立っている様子を見て、活動の意義が実感でき、モチベーションにつながったそうです。

また、昨年度から千葉工業大学から「うちの学園祭でもチャリティ・フリーマーケットと一緒にやりませんか」という誘いを受け、初めて他の大学とのコラボレーションが実現しました。他にも様々な大学で幕チャリを行えるようになることが、メンバーの理想です。

また、今後はフリーマーケットという形式にこだわらず、「気軽に楽しくできる社会貢献」というビジョンに沿った、新しいイベントにも挑戦したいとのこと。これまで培ったノウハウや地域とのつながりを活かすことで、どんなイベントが誕生するか、期待が広がります。

第12回幕張チャリティ・フリーマーケット

日時：平成28年5月29日(日) 10:00～15:00
場所：神田外語大学キャンパス
主催：神田外語大学CUP
協力：神田外語大学ボランティアセンター
同時開催：国際フェスタCHIBA 2016
(千葉県国際交流センター主催)

福祉サービスに関する 苦情解決研修会を開催しました



本会に設置されている「千葉県運営適正化委員会」では、各福祉サービス事業者における苦情解決の取り組みを支援するため、各々の事業者

が配置する「苦情受付担当者」「苦情解決責任者」「第三者委員」の資質向上を目的とした研修会を開催しています。平成27年度は「基礎編」を匝瑳市会場(96名参加)と千葉市会場(386名参加)で開催し、また1月20日に「実践編」を千葉市会場(106名参加)で開催しました。平成12年度に福祉サービスに関する苦情解決制度が発足してから既に15年余が経過しました。今後も各事業者において、職場内研修をはじめ苦情解決への取り組みを一層充実・強化していくことが期待されます。

【お問い合わせ先：運営適正化委員会 TEL043-246-0294】

地域福祉フォーラムシンポジウム を開催しました



2月14日、千葉市生涯学習センターにおいて「平成27年度千葉県地域福祉フォーラムシンポジウム」を開催しました。

当日は地区社協や民生委員、行政、ボランティアなど220名の参加がありました。千葉県地域福祉フォーラム座長で、国際医療福祉大学の小林雅彦教授による基調講演をはじめ、シンポジウムでは、市原市および台地区社協による生活支援のたすけあい活動、野田市立岩木小学校PTAによる防災実践教育、障害福祉サービス事業所セルブガーデンハウスによる町内会との防災協力、佐倉市根郷地区民児協による自治会と連携した活動について発表・討議が行われました。

地域で起きている福祉課題等についてみんなで話し合い、実践する場である地域福祉フォーラムに対する期待は大きく、本会では引き続き新規設置や活動の支援に取り組んでいきます。

【お問い合わせ先：地域福祉推進班 TEL043-245-1102】

PICK UP!

福祉の「新3K」 感謝・感動・希望を実感してみませんか？

kansha kandou kibou

福祉のお仕事

福祉のお仕事 検索 <http://www.nw.fukushi-work.jp/>



知ってる？ 求職者マイページのこと
登録すれば、自動で情報を集めてくれる。そんな楽チンなサービスがあるんです！

福祉のお仕事のホームページにあるバナーから、求職者マイページにアクセスできます。登録はとっても簡単。もちろん無料！必要な個人情報はメールアドレスだけ。名前や住所は入力不要です。

あなたのお仕事探しを効率的に
求職者マイページの3つのサポート

- サポート1 マッチング検索サービス
希望条件にあった求人情報をシステムが自動検索！興味をもった求人票を「お気に入り」登録できます。
- サポート2 マッチング結果速報メール配信サービス
マッチング検索の結果は、マイページで閲覧できます。新着求人はメールでもお届け！
- サポート3 お知らせ情報メール配信サービス
全国の希望地域の就職フェアや再就職を支援するセミナーなどの情報をメールでお届け！

福祉のお仕事は、福祉分野の求人情報関連のWEBサイトで日本最大！
求人情報だけでなく、各施設や事業所の理念・サービスや福利厚生などの詳しい情報、福祉系イベントなどの最新情報も掲載しています。

福祉人材無料職業紹介所
魅力ある福祉のお仕事してみませんか？
福祉の仕事相談コーナー
千葉県福祉人材センター
TEL.043-222-1294
<http://chibakenshakyou.net/>
〒260-0015 千葉市中央区富士見2-3-1 塚本大千葉ビル6階

皆様からのご寄附に感謝いたします!

本会に対する一般寄附をはじめ、本会が運営する「千葉県地域ぐるみ福祉振興基金」および「交通遺児援護基金」へご寄附をいただいております。誠にありがとうございます。

今号では平成27年度（平成28年1月末時点）にご寄附いただいた皆様をご紹介させていただきます。有効に活用させていただきますので、今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

○本会への一般寄附

- 一般社団法人千葉県流通商防犯協力会
- 公益社団法人千葉県柔道整復師会
- 一般社団法人生命保険協会 千葉県協会
- 東京成徳大学
- 匿名（個人3名）

○「地域ぐるみ福祉振興基金」への寄附

- 東京東信用金庫
- 千葉商工会議所 女性会
- 千葉県ボウラズ連盟

○「交通遺児援護基金」への寄附

- 黒須 信行
- 東和射撃クラブ
- 一般財団法人千葉県関東陸運振興センター
- 一般社団法人千葉県LPガス協会青年委員会
- 千葉県中古自動車販売協会
- 千葉県北部日蓮宗青年会
- 匿名（個人2名）

※いずれも順不同・敬称略



PICK UP! 1

1月20日、東京成徳大学の皆様が来所し、本会へ寄附金が贈呈されました。この寄附金は、福祉心理学の授業科目である「地域ボランティア」において、「地域のために学生たちで何が出来るか」というテーマを考える中、地域福祉に役立つために寄附金を集めようという決意、学園祭の中でフリーマーケットを開催して得られたものとのことでした。今回、当日の売上金の全額をご寄附いただきました。

本会では大学生によるボランティア活動の推進をはじめ、学生との協働事業なども進めています。こうした若い世代の積極的な取り組みに敬意を表すとともに、今後



東京成徳大学の皆様（左側3名）と本会役員

も大学や学校等と連携しながら地域福祉を推進していきたいと考えています。

東京成徳大学の皆様、どうもありがとうございました。

PICK UP! 2

12月8日、生命保険協会千葉県協会による福祉寄贈式が三井ガーデンホテル千葉で行われ、本会へ社会奉仕募金が寄付された他、高齢者疑似体験セット（5セット）、高齢者疑似体験システムシニアポーズ（五十肩・円背シミュレーター1式）、アイマスク（20個）が寄贈されました。

当日は、本会松澤常務理事から謝辞の後、本会担当者が寄贈を受けた高齢者疑似体験セットを装着して実演・披露を行いました。

各体験セットは、本会ボランティア・市民活動センターにて、市町村社協や学校等が福祉体験学習等を実施する



高齢者疑似体験セット

際に貸与し、活用していただくこととしています。

生命保険協会千葉県協会加盟会社の皆様、どうもありがとうございました。

○貸出に関する問い合わせ

ボランティア・市民活動センター
☎043-204-6010

平成27年度の賛助会員の皆様をご紹介します

本会の活動を支えていただいている賛助会員の皆様をご紹介します。ご支援に感謝申し上げます。

- 千葉県道路公社
- 千葉県信用保証協会
- 株式会社千葉銀行
- 株式会社京葉銀行
- 株式会社千葉興業銀行
- キッコーマン株式会社
- 京成トラベルサービス株式会社
- 有限会社康進印刷
- 千葉みらい農業協同組合
- 新日鐵住金株式会社君津製鐵所
- JFEスチール株式会社東日本製鐵所
- 公益財団法人ちば県民保健予防財団
- TKC千葉会社会福祉法人経営研究会
- 三陽メディア株式会社
- 株式会社文化堂
- 匿名（個人1名）

※いずれも順不同・敬称略

賛助会員募集中!



千葉県社会福祉協議会では、本会の活動に賛同し、資金的な援助をしていただく賛助会員（個人・法人）を募集しています。賛助会員にご加入いただいた方へは、本会広報誌「福祉ちば」（年4回発行）を毎月お届けします。是非、加入についてご検討をお願いいたします。

※本会への賛助会費は、所得税法による寄附金控除又は法人税法による損金算入対象となります。

【個人会員】 1口年額 10,000円(何口でもご加入いただけます)
【法人会員】 1口年額 50,000円(何口でもご加入いただけます)
■問合せ・申込み先/千葉県社会福祉協議会 総務部
TEL 043-245-1101
http://www.chibakenshakyō.com/

社会福祉施設 経営相談専門家相談カレンダー (平成27~28年度)

要予約 一般相談・予約は043-245-4450 社会福祉施設経営相談室まで

月	会計等	労務等	法律
3月	7日(月)・22日(火)	2日(水)・16日(水)	9日(水)・23日(水)
4月	4日(月)・18日(月)	6日(水)・20日(水)	13日(水)・27日(水)
5月	2日(月)・16日(月)	6日(金)・18日(水)	11日(水)・25日(水)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成27年度

ボランティア活動保険

全国200万人 加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp

ぶくしの保険 検索

補償金額（保険金額）		年間保険料	
保険金の種類	プラン	プラン	プラン
ケガの補償	死亡保険金	Aプラン 1,200万円	Bプラン 1,800万円
	後遺障害保険金	Aプラン 1,200万円 (限度額)	Bプラン 1,800万円 (限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術 入院中の手術	65,000円	100,000円
	保険金 外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
賠償責任の補償	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
	葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円(限度額)	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円 (限度額)	5億円 (限度額)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	プラン	300円	450円
	天災タイプ(※)	430円	650円

(※)天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険 (普通傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険) 送迎サービス補償 (普通傷害保険) 福祉サービス総合補償 (普通傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険)

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 (引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 TEL:03(3593)6824

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763 受付時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。) この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。



平成27年度 歳末たすけあい募金 ご協力ありがとうございました

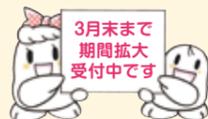
歳末たすけあい運動にご協力いただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。
皆様のあたたかいお気持ちは、市町村歳末たすけあい募金の全額がご寄付いただいた地域の福祉に活用され、NHK歳末たすけあい募金は県内の福祉施設での介護用品等に役立てられています。

平成27年度 市町村歳末たすけあい募金額 229,755,968円
第65回 NHK歳末たすけあい募金額 23,339,251円

(平成28年2月19日現在)

“つかいみち”を選べる募金 ～使途選択募金～

受付期間：平成27年10月1日～平成28年3月31日



振込先 (福) 千葉県共同募金会
千葉銀行 本店 (普) 3925580
郵便振替口座 00100-4-22297

使途選択番号をお振込人欄にご記入ください。振込手数料無料の専用振込用紙をご用意しています。下記までお問合せください。

あなたの強い思いが届きます

- 1 生活困窮者に対する支援
- 2 子どもに対する支援
- 3 子育てに対する支援
- 4 高齢者に対する支援
- 5 自殺を考えている人に対する支援
- 6 犯罪被害者に対する支援
- 7 被災者・被災地に対する支援

共同募金
助成事業

第4回千葉ロッテマリーンズ福祉野球教室

～茂原市社会福祉協議会～<平成26年度 赤い羽根募金>

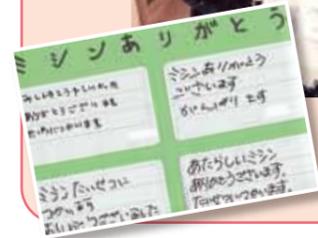


平成27年12月5日(土) 長生の森公園野球場にて千葉ロッテマリーンズの選手・チアリーダーM☆Splash!!の方々をお招きし、長生郡市内の特別支援学校、児童福祉施設、南総少年野球国際交流連盟加入の少年野球11チームの皆さん約200名が参加し、バッティングやピッチングの指導、選手との直接対決、M☆Splash!!とのダンスを行いました。

共同募金
助成事業

作業用ミシンの購入

生活介護事業所
花浅葱 (八千代市)
<平成27年度 NHK歳末たすけあい募金>



社会福祉法人 千葉県共同募金会

千葉市中央区千葉港4-3
TEL: 043-245-1721 FAX: 043-242-3338
E-Mail: c-kyoubo@akaihane-chiba.jp
http://www.akaihane-chiba.jp/

赤いはね ちば

「赤い羽根自動販売機」の設置場所を募集しています

- ジュースやお茶など飲み物を買うことで売上に応じた金額が自動的に赤い羽根共同募金へ寄付されます。
- 自販機の新規設置や入替をお考えの場合は「赤い羽根自販機」の導入をご検討ください。
- ご質問・お問合せは左記までお願いします。



情報フラッシュ

障がい者・ボランティア交流の集い(船橋市)

- 日時：平成28年3月12日(土)11:00～16:00
- 場所：船橋市三咲公民館(駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください)
- 対象：ボランティアに興味のある方(先着100名)
- 主催：船橋市ボランティア連絡協議会
- 内容：「障がいのある人もない人も皆で楽しもう」をテーマに、大久保学園やけいように通う方たちや、日頃からボランティア活動をしている方たちの芸能発表を見て楽しんだり、昼食をとりながらの懇親会や子どもたちが大喜びの抽選会で交流をはかります。
- 参加費：500円(昼食代、景品代等)
※障がいのある方は無料
- 参加方法：船橋市ボランティアセンターへ事前申込み、締切は3月4日(金) ※締切後の場合はご相談ください
- 問合せ先：船橋市ボランティアセンター
☎047-431-8808/047-431-2678 担当：杉澤

精神障がい者ピアサポーター養成講座(成田市)

- 日時：平成28年3月26日(土)13:30～16:30
- 場所：成田市保健福祉館(成田市赤坂1-3-1)
- 対象：どなたでも(定員40名)
- 内容：「WRAP(ラップ：元気回復行動プラン)クラス」ピアサポートグループ在 共同代表 加藤 伸輔 氏 精神疾患の症状や病気から起こる生活のしづらさの対処についてファシリテーターのもとにアイデアを出し合います。また、本講座では、ファシリテーターからグループワークを行うコツについて教わります。
- 参加費：無料
- 参加方法：事前電話申込み
- 問合せ先：成田市社会福祉協議会 ☎0476-27-7755
担当：前林

日本地域福祉学会 第30回記念大会

- 日時：平成28年6月11日(土)～12日(日)
- 場所：日本社会事業大学(清瀬市竹丘3-1-30)
- テーマ：コミュニティの持続可能性の危機と地域福祉のイノベーションを探る
- 主催：日本地域福祉学会、第30回記念大会実行委員会
- 内容：プログラム、参加費、参加方法等は大会ホームページでご確認ください。「日本地域福祉学会 第30回記念大会」で検索。
- 問合せ先：事務局 日本社会事業大学社会福祉学部福祉計画学科 菱沼幹男研究室
大会事務局メールアドレス jracd30@gmail.com



民生委員・児童委員、主任児童委員をご存じですか? ～民生委員制度は平成29年に100周年を迎えます～

民生委員・児童委員、主任児童委員(以下、民生委員)は、皆さんと同じ地域に住む住民が、厚生労働大臣から委嘱を受け、見守り活動や地域福祉活動に取り組んでいます。
生活のことや福祉に関することで、お知りになりたいことやお困りのことがあれば、民生委員までご相談ください。民生委員は、守秘義務が課せられていますので、お話しいただいた内容が外に漏れることはありません。

(制度の概要・特長)

- 守秘義務：民生委員法により「守秘義務」が課せられています。
- 無報酬：民生委員活動に対する報酬はありません。ただ、活動費が別途支給されています。
- 児童委員の兼務：民生委員は、児童福祉法により児童委員を兼ねています。
- 民生委員数：県内では約9千名、全国では約23万人の民生委員が活動しています。
- 一斉改選と委嘱：民生委員は3年に1度、改選が行われます(再任可)。改選の都度、町会・自治会等から推薦された住民が、市町村や県の推薦を経て、厚生労働大臣から委嘱を受けています。次の改選は平成28年12月1日です。
- 歴史ある制度：民生委員制度の端緒は、大正6年に岡山県で開始された「済世顧問制度」まで遡ります。平成29年には100周年を迎えます。

(主な活動)

民生委員は、相談内容に応じた情報の提供やサービス提供機関への橋渡しを主な役割としています。その対象は、高齢者・児童・障がい者等、あらゆる方の生活・福祉に関するご相談に応じます。また、行政や社会福祉協議会、学校等と連携し、下記のような活動にも参加・協力しています(※地域により異なります)。

- ・住民の方からの相談や支援
- ・ひとり暮らし高齢者等の見守り
- ・高齢者サロンや子育てサロン
- ・小学生の登下校の見守り
- ・防犯パトロール
- ・高齢者向けの食事会や茶話会
- ・行政や学校、社会福祉協議会の事業への協力 等々



友愛訪問(流山市東深井中学校区児童協)

(お問合せ先) お近くの民生委員・児童委員をお知りになりたい方は、市町村役場の民生委員担当課までご連絡ください。その他、民生委員に関することは、(公財)千葉県民生委員児童委員協議会(043-246-6011)までお問い合わせください。

福祉の資格 と わたしの仕事

理学療法士

勤務歴7年目

社会福祉法人 千葉県身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター

おた なおき
太田 直樹さん

表紙の人



●患者さんと接する際に、心がけていることは？

事故だけがなされた方や病気の方は、とてもつらい精神状態にあります。時にはネガティブな発言を繰り返されることがありますが、まず患者さんのお話をしっかり聞いて、その思いを受けとめるよう心がけています。こちらから一方的に指導するのではなく、患者さんの気持ちに寄り添いながら、理学療法やリハビリの必要性をしっかりと説明し、理解してもらいます。そして、その方の目標を共有した上で、患者さんと一緒に日々の理学療法に取り組むようにしています。また、患者さんができるだけ楽しく、前向きに理学療法に取り組めるようにも心がけています。

●仕事でやりがいを感じる時は？

患者さんと一緒にリハビリに取り組んだ結果、歩けなかった方が歩けるようになったり、着替えができるようになるなどの目標が達成できた時、やりがいを感じます。リハビリは患者さんとの協働作業と言えるので、患者さんの苦勞も喜びも分かち合うことができます。加えて、現場の仕事以外に研究分野にもやりがいを感じています。人間の身体はまだ解明されていない部分がたくさんあります。過去の研究や私が関わった事例を分析して、学会などの場で大勢の理学療法士や多職種の方に伝えることはとても意味があることだと感じています。

●職場ではどんな専門職と連携していますか？

医師や看護師、ケアワーカー、社会福祉士のほか、作業療法士、言語聴覚士、心理発達治療士など多くの専門職と連携して仕事をしています。日々、各職種と情報交換をしてその時期の患者さんに必要な支援を検討します。そしてそれぞれの専門性を活かしながら連携し、チーム一丸となって一人の患者さんを支えています。

●これから理学療法士をめざす人へのメッセージを

理学療法士は、障害の有無に関わらず子どもから高齢者まですべての方をサポートします。障害をもつ子ども、介護予防の高齢者、産前産後の女性、生活習慣病予防が必要な成人、スポーツ障害のアスリートなど対象は実に幅広く、それぞれの分野の専門性が高いことが特徴です。そのためチャレンジできることがたくさんあり、とても面白い仕事だと思います。この資格を取って、一緒に働いてみませんか。

●理学療法士を目指したきっかけは？

学生時代、バスケットボールに熱中していました。けがをした際に早く復帰するためのマッサージやトレーニング方法を自分なりに勉強したことがありました。それがきっかけで、人間の身体のしくみに興味をもち、医療関係の仕事に就きたいなと考えるようになりました。高校の進路相談で理学療法士という職業を知って魅力を感じていたところ、私自身が大きなけがをして、実際に理学療法士の方にお世話になる機会がありました。理学療法士の方とリハビリを続ける中で、「一人ひとりの思いに寄り添える、とてもやりがいのある仕事だな」「自分の仕事にしたい」と考えて資格を取得しました。

●現在の仕事内容を教えてください。

リハビリテーション（リハビリ）は、主にけがや病気で身体に障害を負った方や手術後の方が日常生活に戻れるように支援することを指します。リハビリには様々な職種が関わりますが、その中でも理学療法士は立つ、歩く、座るといった基本的動作能力の回復をはかることを目的として、歩行練習や階段昇降をはじめ様々な運動療法や物理療法を行う個別の理学療法プログラムを作成し、実践します。日常生活に戻するために必要な福祉用具や家屋改修案のアドバイスなども行います。私は現在、人工関節手術後や脊髄損傷の方、あるいは脳血管障害の方などを対象に理学療法を行っています。



上司から太田さんへのメッセージ

理学療法士は1対1で患者さんと長時間、関わる仕事ですが、太田さんは患者さんのことを第一に考え、患者さんにとって何が大切かを常に考えて接しています。その方の思いを聞き出す力も秀でていきますね。これからはリーダーとして若手職員の見本となることを期待しています。

千葉県千葉リハビリテーションセンター
リハビリテーション療法部成人理学療法科 科長
村山尊司さん



千葉県理学療法士会 会長からのメッセージ

理学療法士は職域がどんどん広がっており、病院や介護保険の施設だけでなく、スポーツリハビリの分野で仕事をしている人も増えています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックも理学療法士の活躍の場になると思います。いい先輩がたくさん動いている業界ですので、この資格に興味を持ってくださいれば幸いです。

一般社団法人千葉県理学療法士会 会長
田中康之さん



理学療法士
になるためには...

理学療法士は「理学療法士及び作業療法士法」に基づく国家資格です。理学療法士になるためには、養成校（4年制大学、3年制短期大学、3年制・4年制専門学校）で3年以上学び、必要な知識と技術を身につけ、国家試験に合格することが必要です。県内養成校の情報や千葉県理学療法士会の活動は下記ホームページでご覧いただけます。

■一般社団法人千葉県理学療法士会のホームページ <http://www.chiba-pt.org/index.html>

FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事

千葉県福祉人材センター
TEL.043-222-1294

福祉のお仕事

検索

<http://www.nw.fukushi-work.jp/>

